

澄んだ瞳

第76号
令和5年12月号

発行
相生市教育委員会
相生市人権教育研究協議会

じんけんぶんか

人権文化をすすめよう！

じんけんしゅうかん

人権週間

12月
4日から
10日

「人権文化」とは

日常生活の中で、お互いの人権を尊重
することを、自然に感じたり、考えたり、
行動することが「当たり前」になった生活
をいいます。

「わたしのおねえちゃん

・おにいちゃん」



きょう、おにいちゃんとおねえちゃんが、
ねっちゅうしょうになりました。わたしをお
うちまでおくってくれました。おうちにかえ
たら、おにいちゃんが、エアコンをつけて
くれました。おねえちゃんは、みずをのませ

「地下鉄の助け合い」

てくれました。そのあと、いっしょにあそび
ました。おにいちゃんとおねえちゃんがやさ
しかったです。うれしかったです。

(小学一年生)

わたしが、お父さんと二人でお出かけをし
て帰るとき、地下鉄に乗りました。かばんみ
たいなものを持った駅員さんのお姉さんが
いて、「何をするのかな?」と思って見てい
たら、電車が来てドアが開きました。お姉さ
んは持っていたかばんのようなものを広げ
て板にして、車いすの人が来たら、その板で
坂をつくって、電車から降りやすくしまし

た。そのあとに車いすの人が元気に「ニ
」で「ありがとございます!」と言ってい
たので、お姉さんもとてもうれしそうに思
いました。わたしはそれを見て、「助け合
って見ただけでも気持ちいいなと思
いました。それを見ていると助け合いが今す
ばくなりました。

(小学三年生)

「人と人のやさしい関係」

今日、友だちが「しんどいんだあ」と言
った時に、すぐ「だいじょうぶ?」と聞いてあ
げました。このように「だいじょうぶ?」の
ようなやさしい言葉で聞いてあげるとみん

なの心があたたまります。家でく・友だち先生、だれでもいいからやさしい声をかけると心があたたかくなります。そして友だちとの関係もよくなります。これからさらに、言葉だけじゃなく、笑顔もふやしていこうと思います。笑顔はお金では買えない物だから、自分もがんばろうと思います。

(小学四年生)

「中央小祭り」

私は今日、中央小祭りですごく思い出に残ったことがあります。それは「班のみんなとの協力」です。今日一緒にまわった一年生、二年生、三年生に「最後の中央小祭りを一緒に笑い合いながらまわってくれてありがとうございます。」って言いたいです。

班のみんなと声をかけ合いながら協力し、笑い合いながらする中央小祭りは本当に楽しかったです。最初は、楽しくできるか

不安でしたが、やってみると、とても楽しく最高でした。

最後の中央小祭りを私は思い出のページにはさもうと思います。

(小学六年生)

『「相生と韓国・朝鮮のかかわり」を学んで』

学年人権学習で「異文化の民族との交流の大切さ」を感じることができました。

異文化交流は、昔、父から聞いたことがあり、概ね知っている内容なのだろうと思っ

ていたら、まだ聞いたことのなかった内容が

たくさんありました。「海峡を渡ってきた

人」の詩は、当時労働していた韓国・朝鮮の

人の境遇がよく表れていました。韓国・朝

鮮人がここにやってきた証を現代にも残し

ていくことで、戦争による悲劇を二度と起

してはいけないという誓いになるのかなと

思いました。

今回の授業は、生きていく中で必要な授業だと思いました。先生たちが相生と韓国・朝鮮の過去や現在のことについて伝えようとする力強さが伝わってきました。今回の授業で一番感動したところは、プラタナス並木の話でした。朝鮮の人たちにとつて、楽な暮らしでは決してなかったはずなのに、二百本の植樹をしたのは、とてもすごいことだと思いました。

(中学二年生)

「人権講演会を聴いて」

今日、確認したインスタやLINEは他人にとられていなかったんで、少しホッとしました。話を聞いていて思ったことは、SNSは大きなトラブルの元となってしまうということです。イジメや炎上の原因にもなるので、使い方を再確認して、大きなトラブルに巻き込まれるということがないように徹底して使用していこうと思いました。一度、インターネット上にアップしてしまったものや掲

示板などに書き込んでしまったことは一生消えることがなく、永遠に残ってしまうので、発言したり、投稿したりするときは、責任をもって行動していると思います。

また、月に一回ほど、他人にのっとられないか確認しておく、この先、少しは安心できると思うので、自分で日にちを決めて、実行しようと思います。トラブルに巻き込まれないようにこれからスマホを使っていきたいと思いました。

(高校二年生)

演劇「Touch」の紹介

作者 ライル・ケスラー

一九八五年、アメリカ・シカゴで上演され、ブロードウェイで絶賛を浴び、一九八七年には映画化もされた。

北フィラデルフィアに生まれ、アレルギーの発作でほとんど外に出られない弟フィリップと不良の兄トリートは孤児として二人で暮らしている。ある日、二人の前に現れた謎の紳士ハロルド。ハロルドは彼らを「デット・エンド・キッド」(行き止まりの子どもたち)と呼び、手を差

し伸べる。次第に心を開いていくフィリップ、それとは対照的に触れ合いを拒絶するトリート。

「孤児」である三人の出会いが、孤独を抱えながらも、真剣に相手と向き合うことで、新たな一歩を発見していく。

『演劇「Touch」を鑑賞して』

「Touch」を見て、血のつながりがある兄弟のトリートとフィリップの愛、血のつながりのないハロルドと兄弟の愛という二つの関係性の互いに思い合っている気持ちがよく伝わってきました。

最初のトリートとフィリップでは、互いに大切に思っているけれど、言葉にできないものでかしさを感じました。でも、ハロルドと出会って、人と触れ合うことのぬくもりや安らぎを知って、少しずつ心を開いているように感じ、大人になっていくフィリップを引き止めようとした寂しさや愛に飢えているトリートが心に響きました。同じような環境で育ってきたからこそ、わかり合えたことがあったのかなと思いました。最後のハロルド

が亡くなった後のトリートの激しくゆさぶられる心情に心が痛くなったけれど、トリートとフィリップの抱き合う姿を見てすぐ成長したんだなと思いました。

(高校二年生)

『演劇「Touch」を鑑賞して』

今回の芸術鑑賞会で、「Touch」を見て僕が考えた事は、「正義って何なんだろう」という事です。作中で、トリートがバスで態度の悪い客ともめるといふシーンがあります。トリートは老人がバスに乗ってきたのに、席をゆずらない客に腹を立て、果てには殺してしまおうとまで思っていました。

老人にバスの席をゆずるといふ行為は正しいと思いますが、その過程で、誰かを傷つけ、殺してしまおうとするのは決して正しい行為とはいえません。とはいえ、老人の方に席をゆずらず、黙ったままというのも正しい行為とは程遠いです。このことから、正しいことをしようという正義感をもって生きていくことはよいと思うのですが、それが行きすぎては元も子もありません。正しい度合い

の正義感をもって今後は生きていきたいな
と、演劇を見て思いました。

(高校二年生)

「ネットトラブル」

私たちの生活になくってはならない物とな
ったSNSだけど、ずっと前から言われていた
ようにすぐそばには危険が隠れているんだ
と講座の話を聞いて、改めて実感しまし
た。私はSNSの危険性や注意点を理解してい
るつもりだったけれど、自分が考えていた
よりも様々な場面で危険が隠れているんだ
と学ぶことができました。

これから生きていく上で、SNSはな
くはならないものだと思います。私も
たくさん使うことになると思います。さ
らに、技術もどんどん進歩するでしょ
う。そのような中で、私たちが注意し
ないといけない点も多くなってくると思
うので、その事も意識しながら、SNSを上
手く楽しく活用していきたいです。

(高校三年生)

人権週間

人権週間



12月4日(月)から10日(日)

国際連合は、世界人権宣言の採択を
記念して、採択日の12月10日を「人権デー
(Human Rights Day)」と決めました。

法務省及び全国人権擁護委員連合会
は、「人権デー」を最終日とする1週間は
「人権週間」と定め、世界人権宣言の
意義を訴えるとともに、人権尊重思想の
普及高揚に努めています。

令和5年12月4日から10までの
1週間

PTCA活動実践発表会

・人権ふれ愛シネマ

日時 12月2日(土) 13時30分

会場 相生市文化会館 相扶桑通

内容 映画 「梅切らぬバカ」

都会の古民家で寄り添い合って暮らす母と息
子。自閉症を抱える息子が五十回目の誕生日を
迎えたある日、このままでは共倒れになってしま
うと不安になる母親。地域コミュニティとの不和
や偏見といった問題を取り入れながらも、親子の
絆と深い愛を描き、あたたかな感動をもたらす
作品です。



梅切らぬバカ

※入場無料

※令和5年度人権ポスター特選
作品を会場入口に展示します。